



環境学習市民連合大学

環境楽習会

環境学習原論

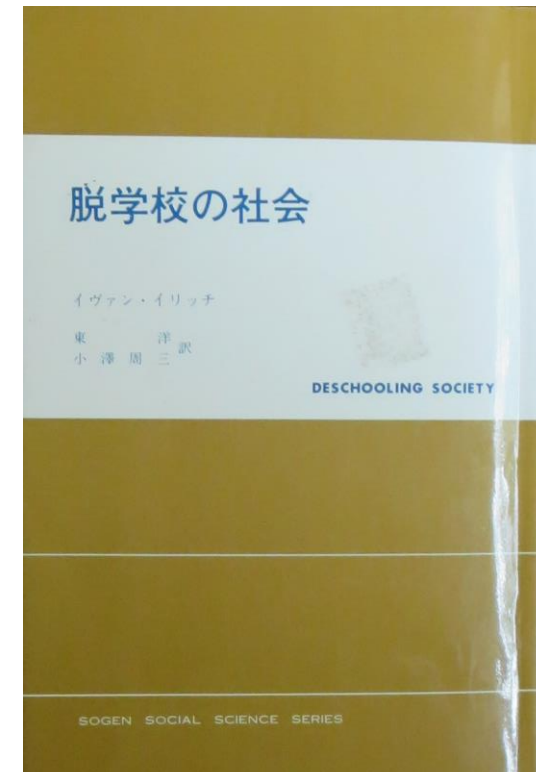
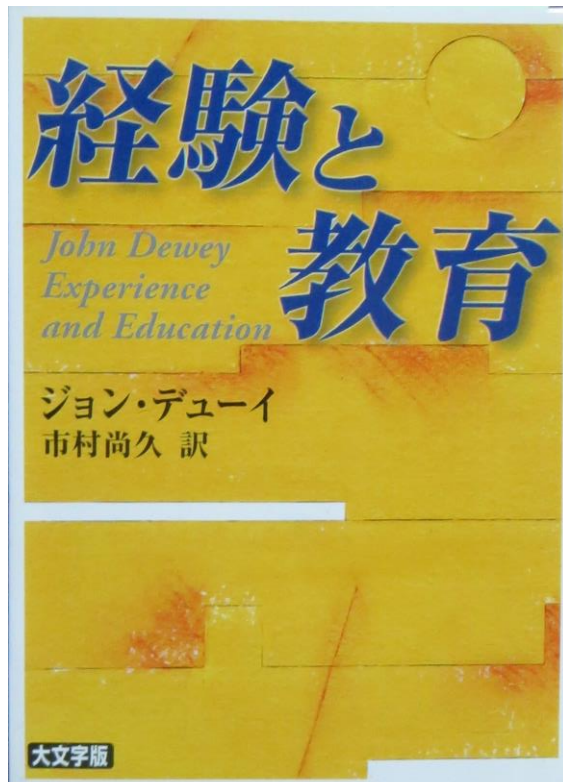


第3回 生涯における環境学習過程 および日本村塾教育



素のままの美しい暮らし sobibo

木俣美樹男2021.10.31



第2回座談会での主な意見

- 気候変動に対する倫理観が低い。経済成長のことばかりで、内面的な事には関心はない。環境教育の位置づけが低い。ダイナミックな活動が必要で、情報は提供したい。
- 「やまとたましひ」を日本独自として強調することは良くない。「やまと」のくくりがどこまでか、なにをもって「やまと」というのか。
- 田舎と都会は多様性の問題だ。環境都市は良い考えだが、人間と自然の関係が大事だ。ブータンは自然と調和した世界だ。第七感だけを強調するのは良くない。
- 中国の貧困な田舎の農家に泊まった。豊かさの意味を考え直し、価値観を大きく変えたいと思った。生活の中に緑や水があることの楽しみがあって良い。
- 子供の冒険遊び場を作りたいと思った。屋敷林に老人が住んでいて、彼らが子供と一緒に遊べれば良いと思っていた。
- IPCCの評価報告書では人間の活動が温暖化の要因であると言い切っている。

心の構造と機能

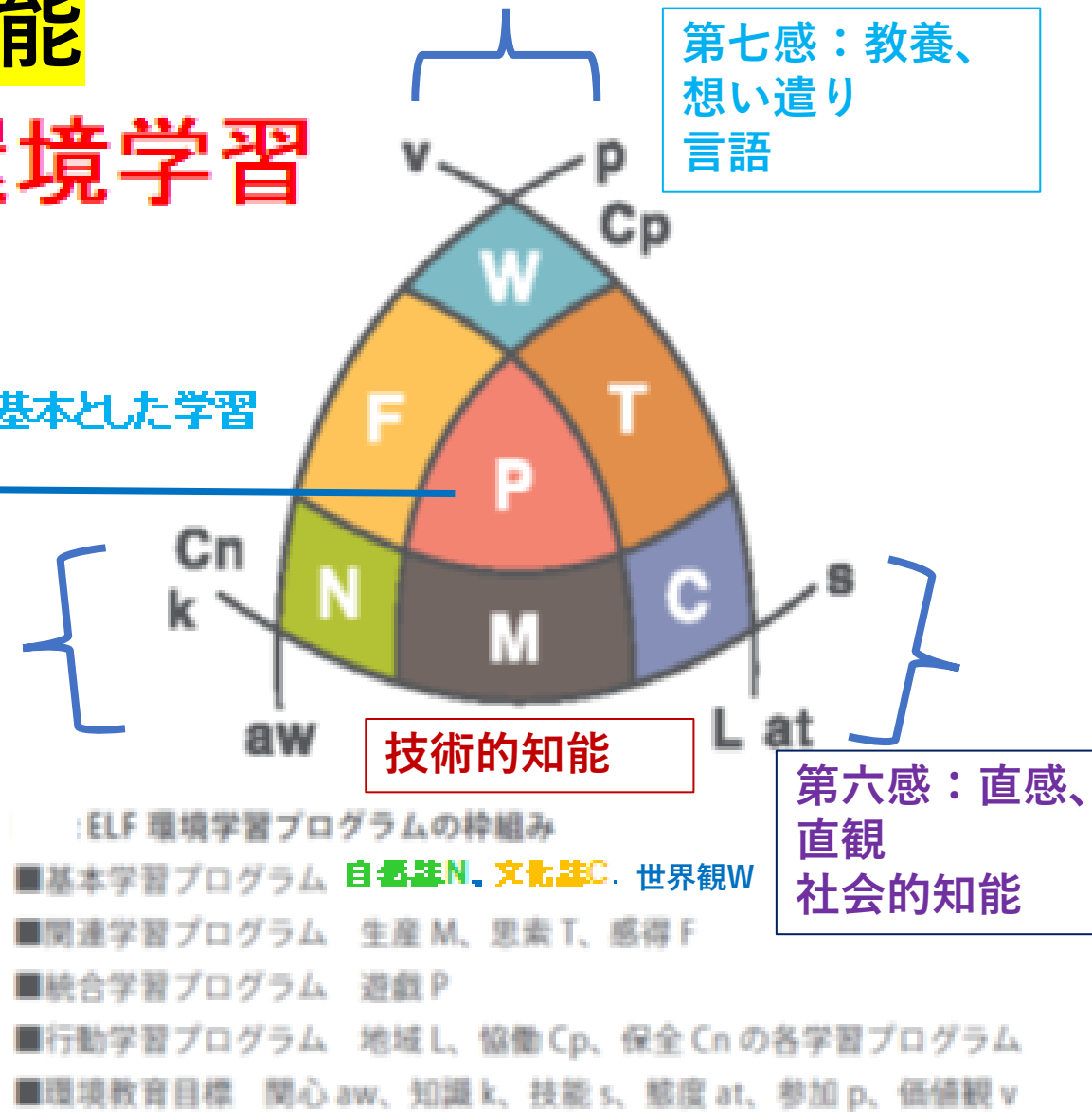
ELF環境学習 過程

自然の三相を基本とした学習

統合：遊び・趣味・美学
一般知能

五感：感性
博物的知能

一般知能
社会的知能



知能と情理

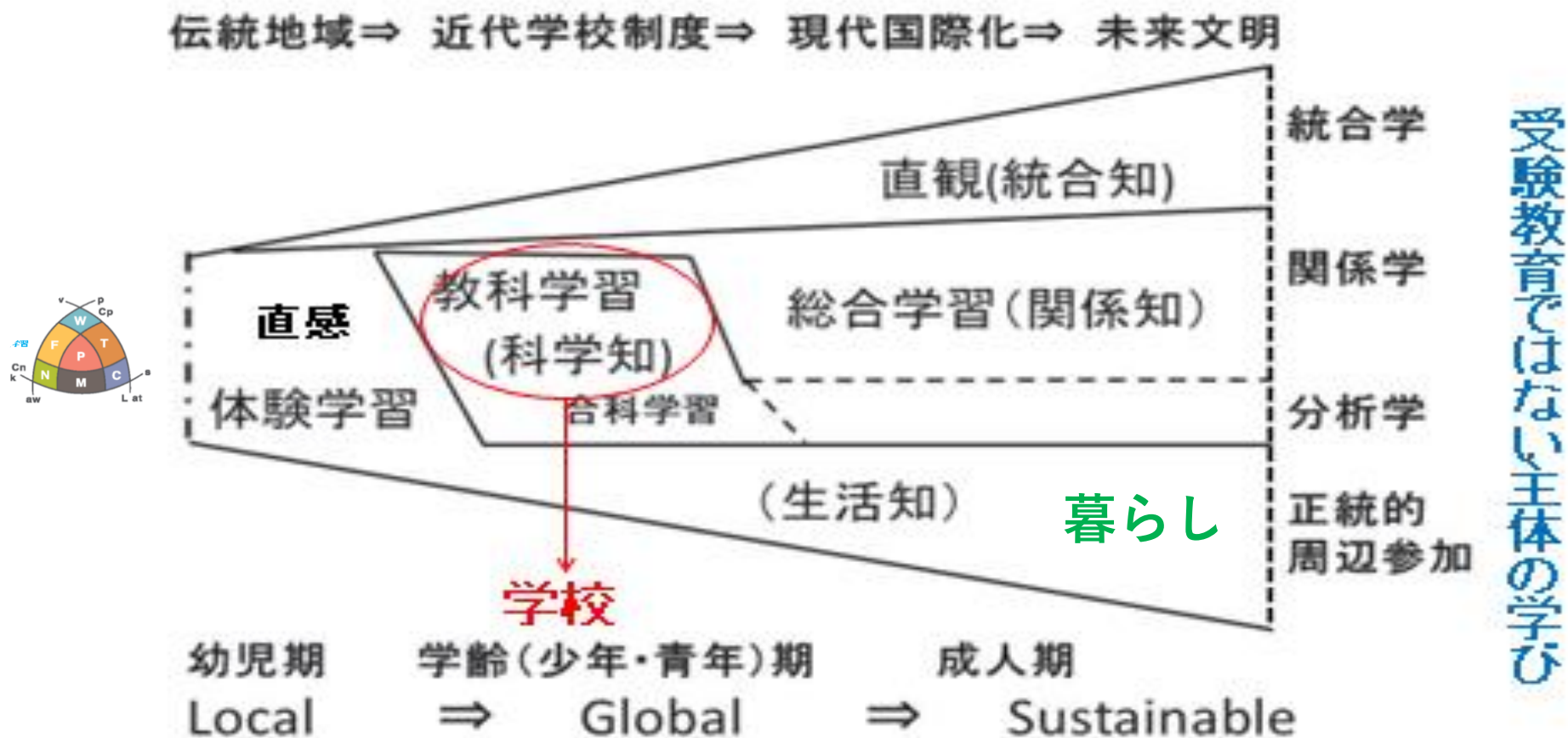
自然と文化を学び、考える

素のままの美しい暮らし
Sbibo

美意識
やまとたましひ

直接体験：自然に帰る、生業を学ぶ、地域で動く。間接体験：読書で歴史に学ぶ。

生涯における環境学習過程



個人学習履歴

学校教育履歴

職業履歴

学びはどこでも、いつでも。学校任せにしない

生涯における学習過程～人生は幸せであって良い

- 個人学習履歴：非制度の学習、脱学校の社会（イリイチ1970）
不文律：制度化しないで自律
制度に拠らない学びの場、社会の中で、自由に学ぶ
- 学校教育履歴：公教育、学校教育制度、基礎知識の保証
立法：制度化する行・政治で他律
偏見、先入観を一方向的に刷り込む
- 職業履歴：成人教育、技能の習得（デューイ1938）
体験的学習（正統的周辺参加 Legitimate peripheral participation）

生涯学習lifelong learning:

- **フォーマル教育** formal : 教育機関や訓練機関によって提供され、対象・学習時間・支援などの面で構造化されており、認証取得のための課程である。
- **インフォーマル教育** informal : 労働、家族、レジャーなどの日常活動の結果としての学習。構造化されておらず、一般的には認証取得を目的としていない
- **ノン・フォーマル教育** non-formal : 学校教育とは異なり、固定されたカリキュラム、シラバス、教育機関認証、卒業認定などが存在しない様々な学習状況についての緩い定義である。フォーマル教育とインフォーマル教育の中間に位置する概念になる。

{欧州職業訓練開発センター(CEDEFOP 2001) のガイドライン、Wikipedia}

研究者への個人史

人新世の初期を生きてきて

国内外での学術調査(特にインド亜大陸)



遺伝学 生理学 種 生態学 進化 遺伝資源 生物多様性 生物文化多様性

植物学 生態遺伝学 栽培植物起源学 民族植物学

第四紀植物

1950s

'60s '70s '80s '90s present

2020s

園芸

環境美化

環境教育

環境教育学

環境学習原論

心の構造と機能

環境 農業 教育 文化人類学 教育学 倫理

人口増加
海洋汚染「水俣病」

地球環境問題
大学

教育問題
エコミュージアム

環境教育推進法
ビオトープ

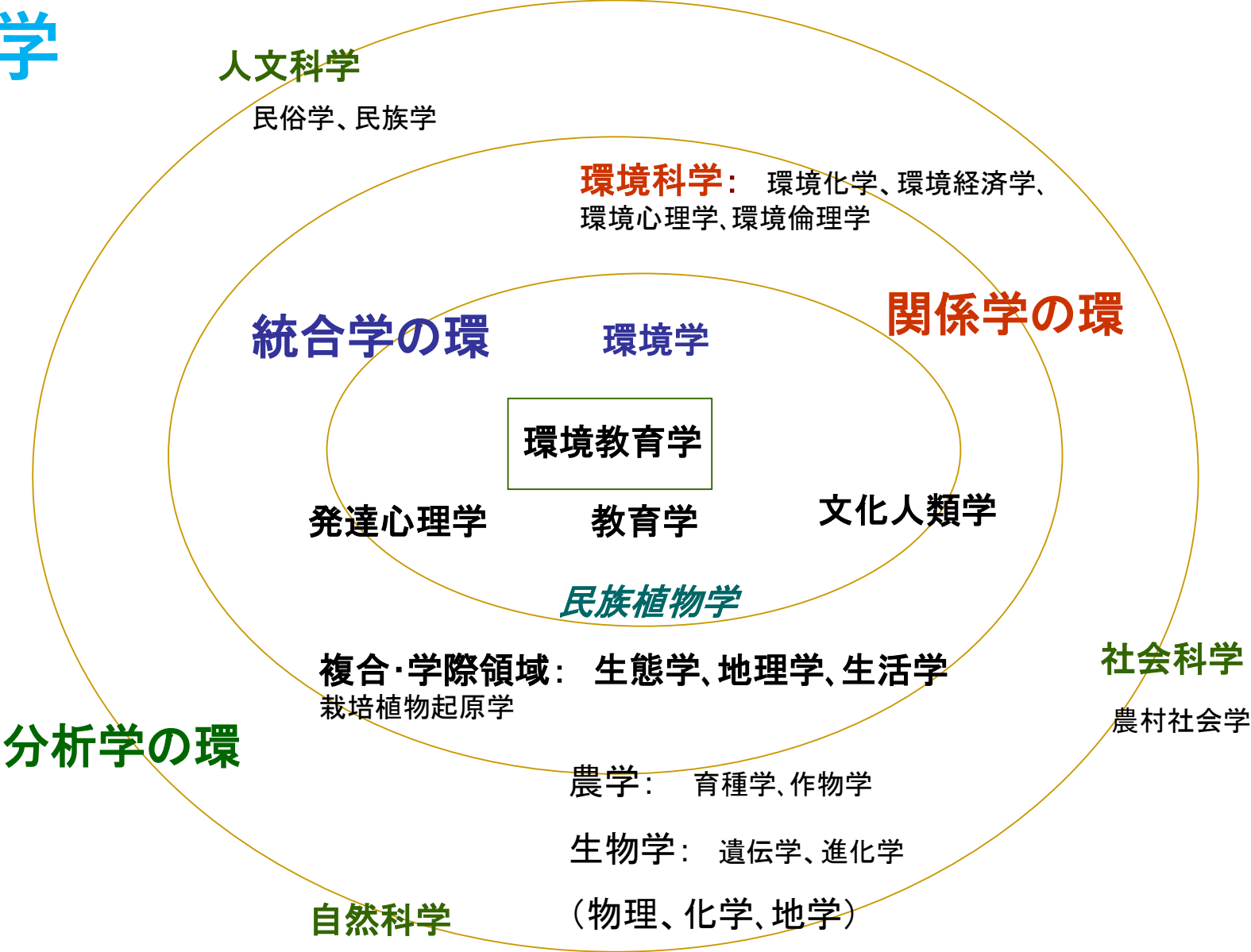
世界農業遺産
雑穀街道普及会

阪本寧男(植物学) 降矢静夫(山村農) 高木文雄(行政)

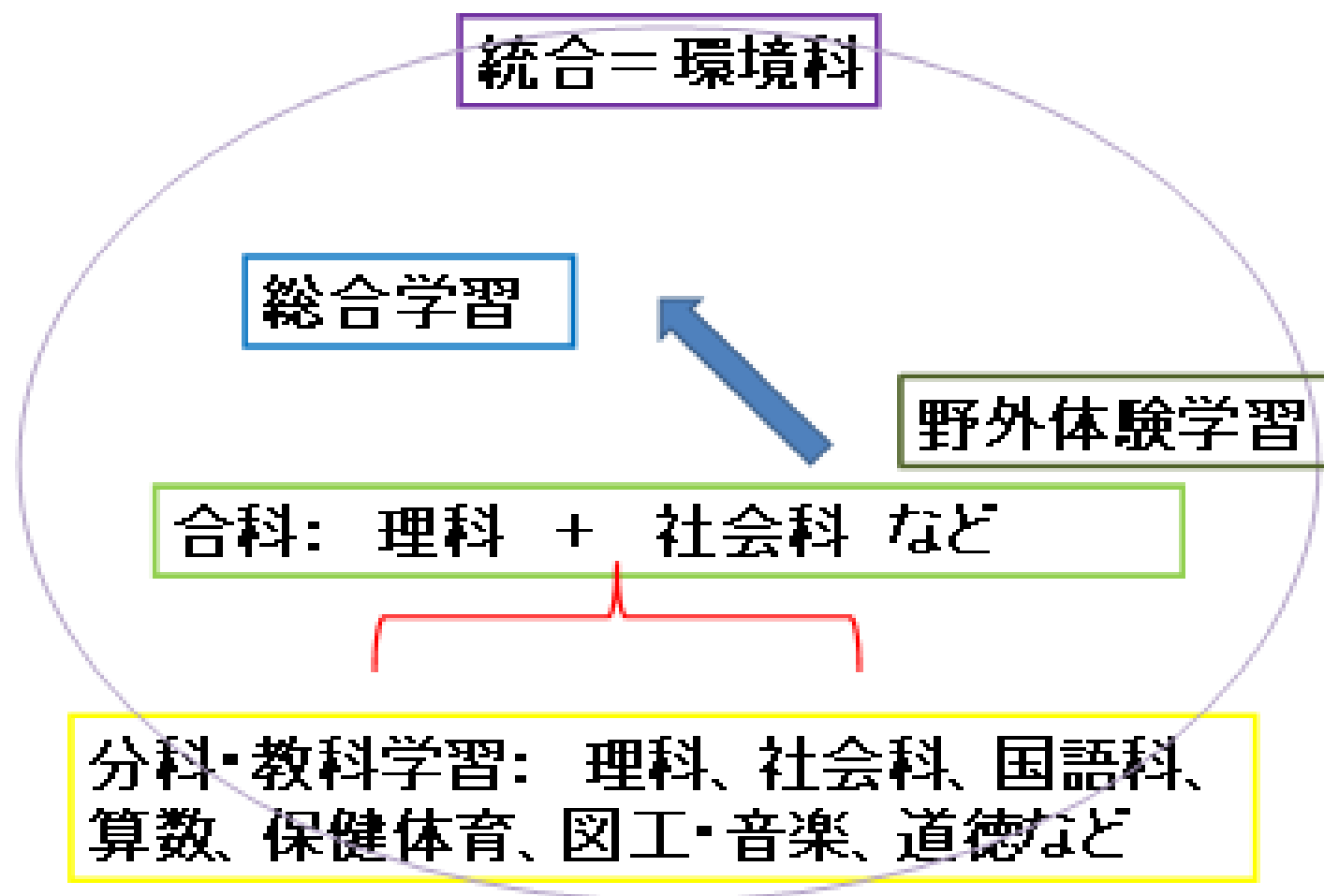


環境教育学 から見る

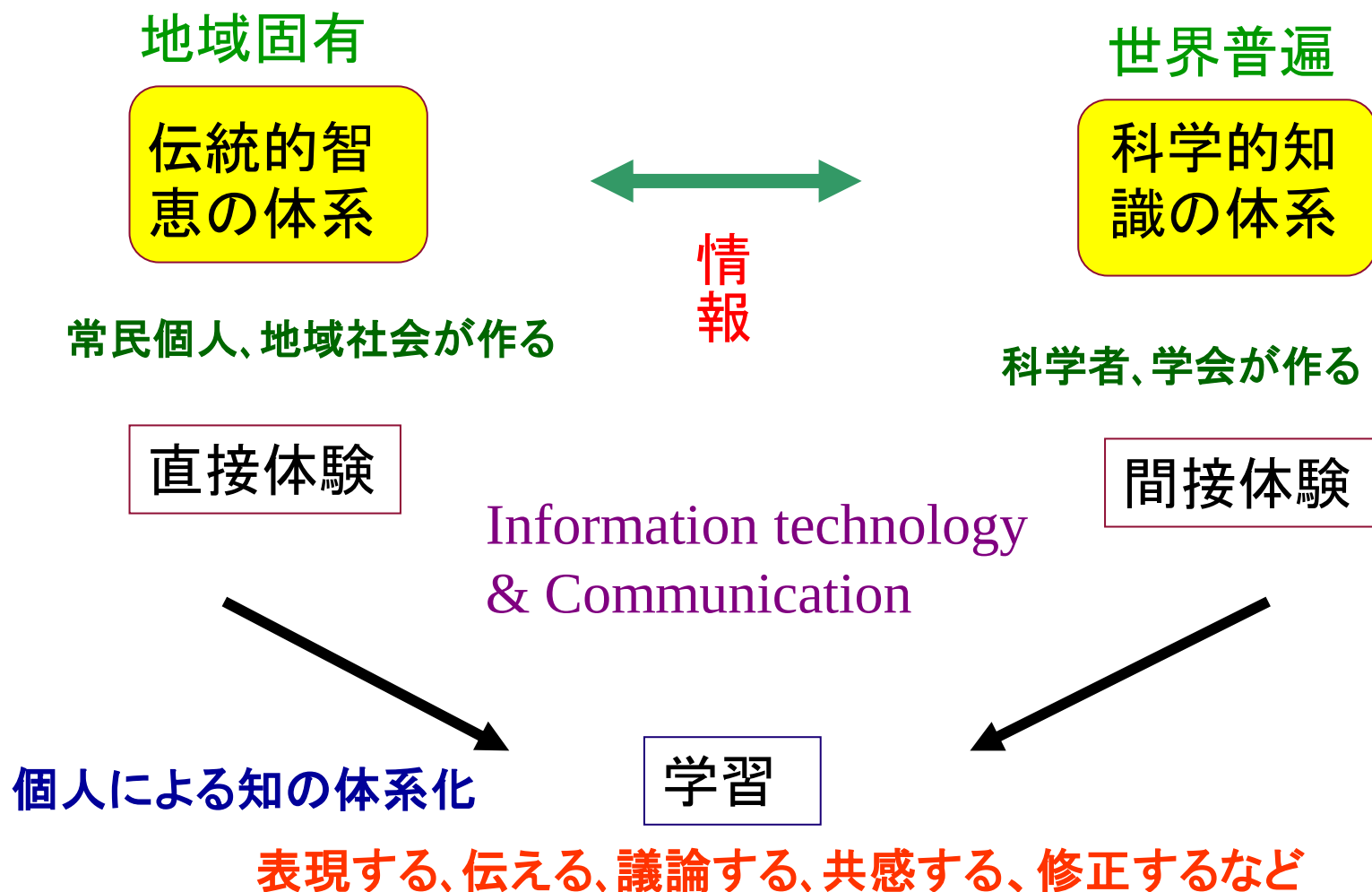
科学の環



環境学習の手法



持続可能な社会のために環境学習を深める



伝統的智恵の体系と西欧科学の体系の比較

伝統的智恵の体系	西欧科学の体系
自然界のすべての部分が 生命あるもの とみなされ、すべての生命は 相互依存 を形成する	人類の生命は他の生命の形を制御する 道徳的な権利 をもって 上位にある と、一般にみなされる
智恵は主に 口承 によって伝達される	知識は主に 記述言語 によって伝達される
智恵は 観察と実体験 によって発達し、習得される	知識は、その応用的脈絡から 離れた状況 で、一般に学習される
智恵は 全体論的、直観的、質的、および实际的 である	知識は本質的に 還元論主義、量的、分析的、および理論的 である
智恵は通時的(長期的)な時間尺度で 資源利用者 によって生み出される	知識は共時的(短期的)な時間尺度で 専門研究者 たちによって主に生み出される
特定の智恵の特性と状況は、 精神的な信条のような社会—文化的要因 によって影響され、 共通 に保持される	特定の知識と状況は、 同僚の論評 に影響され、 個別の専門家 たちによって保持される
知覚される諸現象の真意の説明はしばしば 精神性にもとづき、主観的 である	知覚される諸現象の真意の説明は本質的に 合理的で客観的 である
智恵は変動する条件下で 適切な決断 を下すのに用いられる	知識は 仮説を提唱 し、基本的な法則、また定理を確かめるために用いられる

冒険学校、ちえのわ農学校、環境学習セミナー、雑穀栽培講習会、日本村塾、「学校園の基礎と計画」



植物と人々の博物館

雑穀畑を焼く



聞き取り調査



僻地教育インタビュー



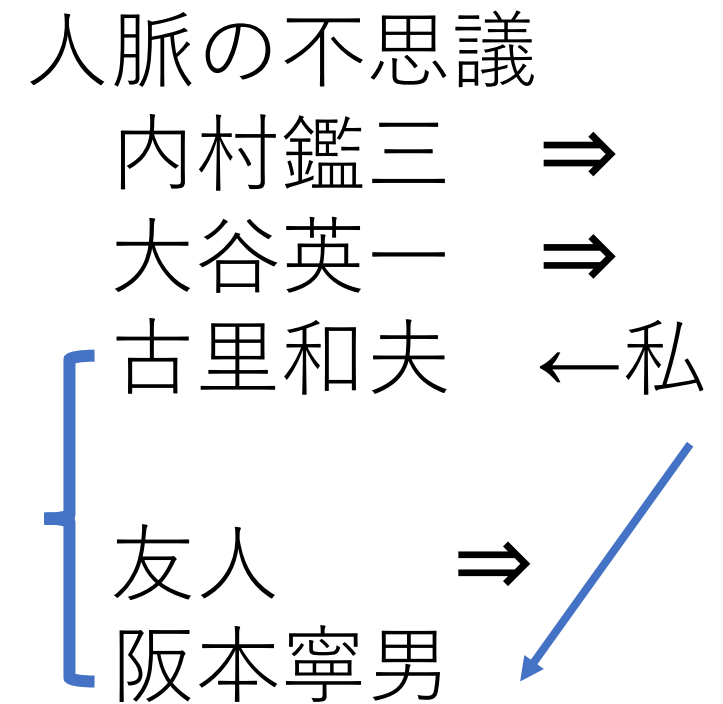
伝統知の伝承：
草木染



民具の整理・展示



伝統知データベース
づくり



エコミュージアム日本村、日本村塾を始めたら、歴史をさかのぼって、

古書『日本村塾教育』につながり、古里和夫から興農学園につながり、大谷英一から内村鑑三につながった。

日本村塾教育の系譜

生きた言葉で語り合い、それぞれの生を深めていくことが目的であれば、資格や試験、単位などは不要だとグルントヴィは考えた。デンマークの国民高等学校は**1844**年に最初の試みが始まった。内村鑑三は、平林広人からデンマークのことを多く学び、平林にこの世でなすべき最後の仕事である興農学園を託して、**1930**年に他界した。

さらに、内村の晩年の弟子であった鈴木弼美^{すけよし}山梨県七保村は山形県小国村に移住して、**1934**年に基督教独立学校（現在の基督教独立学園高等学校）を創立した。鈴木は、敗戦のどん底にあったデンマークを救ったのは国民高等学校だと考えた。教養が考える人間を作り、この考える人間が農村を因襲と貧困から解放すべき使命を持つと信じた。

これらの他に日本の三愛精神の影響下にある学校は、キリスト教愛真高等学校、望星学塾（東海大学）、酪農学園大学、愛農学園農業高等学校、瀬棚フォルケホイスコーレ、小国フォルケホイスコーレなどがある（小山**2000**）。

エコミュージアム日本村 日本村塾

イギリスのケンブリッジ大学のカレッジをモデルとした「生のための学校」を求め、生きた言葉で語り合い、それぞれの生を深めていくことを目的とし、資格や試験、単位などは不要というグルントヴィの考えは、日本村塾**Nihonmura College for Environmental Studies**の基本理念とまったく同調・共鳴する。

もうさっさと受験教育をやめて、イリイチが言ったように、学校化社会を脱しなければ、幸せに生きるための学びはないと考えている。

そこで、自然文化誌研究会とともに行った**40**年以上の環境学習実践に基づいて考察し、環境学習原論を記述した。これは単なる環境教育の原理の到達点ではなく、現代の人々の生涯学習の統合原理として提案したものである。

もう一度、大学を創り、再びルネサンスをしよう

- 人生の師友を求める。

師友を選び、選び合う。師友がともに学び、育み、与えあう。

- もう一度、学びを始めたい。 12世紀ルネサンスの嚆矢となった大学。⇒ 環境学習市民連合大学
- 哲学しよう：哲学philosophyとは、原義的には愛知を意味する学問分野、または活動である。現代英語のphilosophyは哲学・哲学専攻コース、哲学説、人生・世界観、達観、あきらめなどを意味する。

「愛知としての哲学」は知識欲に根ざす根源的活動の一つだが、19世紀以降は自然科学が急発展して哲学から独立し、哲学は主に美学、倫理学、認識論という三つで形作られるようになった。（Wikipedia2021.8）

社会変容の3様態： 移行、改革、革命

無関心でいれば、社会は
悪く変わり、さらに野蛮
になる。

ゆっくり、ささやかでも
良く変える意思を持ち続
けることだ。



ジーンgene遺伝的複製子とミームmeme文化的複製子

現代の科学技術による便利さのすべてを全否定的にとらえているのではなく、便利の過剰を選択する必要性について述べているのである。

個人の自律した選択が生活や人生の質量を知足するように願いたい。心の機能を支える五感（視・聴覚、味・嗅覚、触覚）は美を感じ、第六感（直感・直観）は真を観ぬき、第七感（良心・教養）は善を行う。

すべては天性（遺伝的複製子ジーンgene）のみならず、師友を求め選び、自律した学習（文化的複製子ミームmeme）によって、粗野・野蛮から洗練・文明の品性を鍛え磨く。

素のままの美しい暮らしは自然と文化の粹であって、自然が粗野、文明が洗練と固定的偏見してはおらず、むしろ現代文明が粗野で野蛮な状態にあるのではないのかを問いただしたい。

森とむらの図書室のご紹介

図書館、博物館、美術館などは社会的共通資本です。私は、**10**人ほどの先達知人から多くの書籍を預かりました。

日本の大学の貧弱な図書館施設では、すでに満杯で、司書職員も少なく、もう書籍は受け入れられないので、自然文化誌研究会の森とむらの図書室がお預かりしました。

小金井では緑小学校の校長などを歴任された西川至さんからインド関係の書籍**1,200**冊ほど、市民会議会員の若林高子さんから水関係の**100**冊ほども含まれて、山梨県小菅村の植物と人々の博物館に合計**8,000**冊ほどあります。

＊貸出し図書として置く。不要になれば返却していただく。
環境フォーラムでは読書会を行い本と著者を紹介する。

山梨県小菅村

自然文化誌研究会
植物と人々の博物館
雑穀見本園
いつものキャンプ場



植物と人々の博物館

展示

森とむらの図書室



第4回環境楽習会 予定

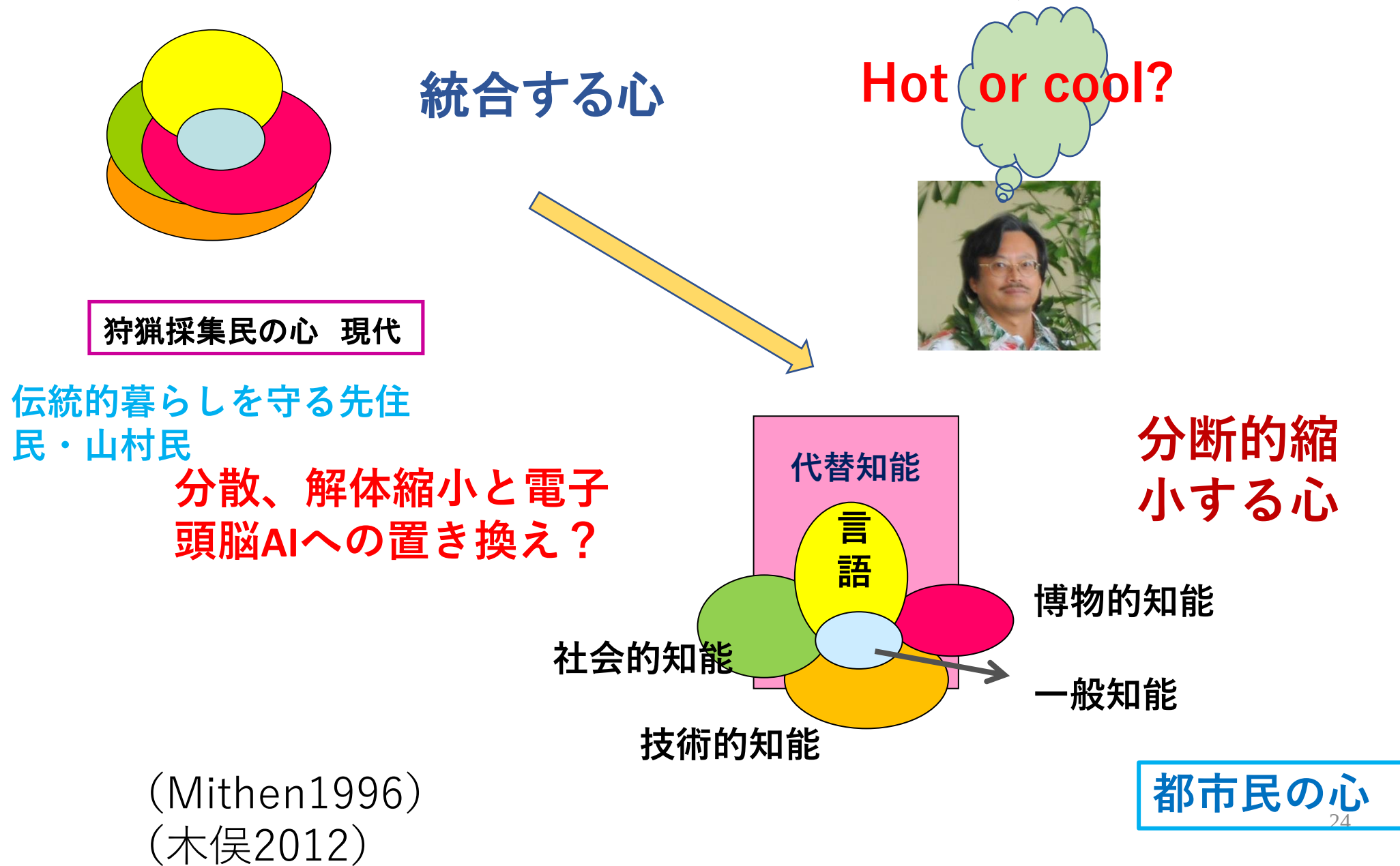
12月26日、 10：30～12：00、 環境楽習館とZOOM

仮題：気候変動に対応する暮らし

話題提供：藤村コノエさん （環境文明21 代表）

- 11月18日（木）、13：30～15：30、環境学習館、読書会「街を耕す、先達明峯哲夫の著作をめぐって」
- 11月23日（火・祝）、14：00～16：00、カエルハウスかZOOM、第2回自給農耕ゼミ（小金井）「農山村の多面的機能とエコミュージアム、 エコスタディ・ツーリズム」。

心の構造：狩猟採集民と都市民の比較



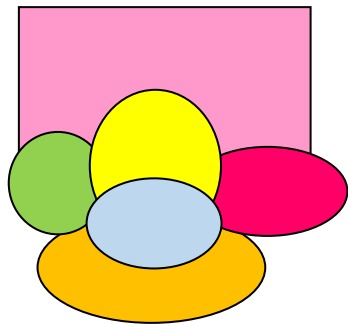
(Mithen1996)
(木俣2012)

人類の心の進化



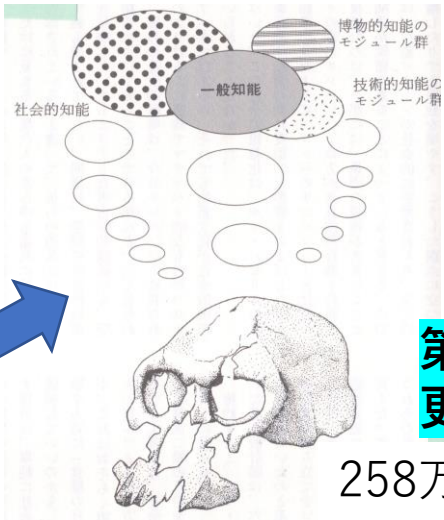
人新世

1945年から
現代都市民



11,700年前から
農耕民

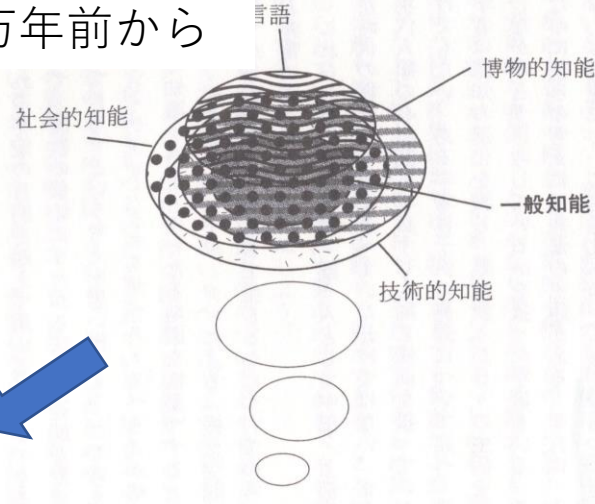
第四紀
完新世



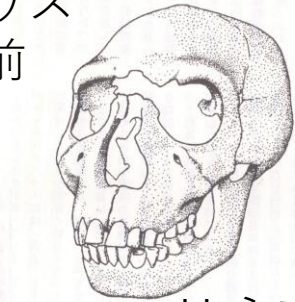
H.ハビリス
200万年前

第四紀
更新世

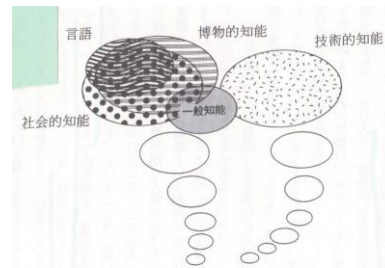
258万年前から



H.エレクトゥス
180万年前



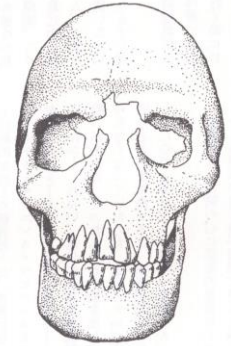
H.ネアンデルタールンシス
22万年～3万年前



H.サピエンス
10万年前

初期現代人類

(Mithen1996改変)



現代狩猟採集民

第四紀の生活史

地史第四紀	人類種	生活様式	時代の変曲点	経済社会組織
更新世 285万年前				
200万年前～	ホモ・ハビリス	狩猟採集		ムレ
180万年前～	ホモ・エレクトウス	狩猟採集		ムレ
22万年～3万年前	ホモ・ネアンデルターレンシス	狩猟採集		家族
10万年前～	ホモ・サピエンス	前農耕		家族
完新世 11700年前	ホモ・サピエンス	生業	農耕の起源	ムラ、部族
		農業	農業革命	戦争、国の成立、民族
		砦業	手工業	同業者組合ギルド
		工業	産業革命	株式会社
新人世 1945年		アナログ	原子力	石油メジャー
			緑の革命	世界アグリビジネス
		情報デジタル	IT革命	グローバル情報企業

農耕と農業の比較

項目	農耕	農業
経済	自給、生業	産業、資本多投下
耕作面積	小規模	大規模
従事者	家族	家族+小作人、季節労働者
生産物	生活食料	租税、商品、戦略物資、バイオ燃料
作物	多品種少量生産	特定作物大量生産
栽培方法	有機的	無機的、農薬・肥料多用
生物文化多様性	高い	画一的、低い
農耕文化基本複合	維持継承	衰退か無い
社会形態	地域共同体	国行政体
自尊、誇り	自力自立、自律	自己家畜化の進行、他力他律

人新世：日本での出来事を中心に

暦年	原子力関係	国連宣言	人為災害	自然災害	世界的流行	情報通信
1945	トリニティ実験、原子爆弾の広島・長崎への投下		第2次世界大戦後、化石燃料の使用増大、二酸化炭素排出量急増（1950's）、温暖化		人口爆発、家畜飼養数の増加開始（1950）	テレビ放送開始（1953）
1948		人権宣言				
1954	ビキニ環礁水爆実験、第5福竜丸など被曝		水俣病（1956）、新潟水俣病（1964）、イタイイタイ病（1910~1970's）、四日市喘息（1959~1972）	伊勢湾台風（1959）	アジアかぜ（1957）	
1963	東海村の動力試験炉JPDR初発電		緑の革命（1968）		香港かぜ（1968）	
1970	核拡散防止条約					
1972		人間環境宣言	ヴェトナム戦争終結（1975）			
1979	スリーマイル島原子力発電所事故		遺伝子組み換え（1980's）		後天性免疫不全症候群（1984）	インターネットの普及（1982）
1986	チェルノブイリ原子力発電所事故		アメリカ同時多発テロ（2001）	阪神・淡路大震災（1995）	牛海綿状脳症（1986）	
1993		生物多様性条約				
2007		先住民権利宣言	ゲノム編集（2005）、ピークオイル（2006）			SNSの普及（2004）
2011	福島原子力発電所炉心溶融		放射性物質拡散（2011）	東日本大震災（2011）、御岳山噴火（2014）	鳥インフルエンザ（2005）、豚インフルエンザ（2009）	
2017	核兵器禁止条約			台風18号（2015）	急性呼吸器疾患（2019）	
2018		小農権利宣言				人口知能AI（2020）、ビッグ・データ
			人為的環境変動	地史的環境変動		